

哲学喫茶

瓦版 2010年8月号

Pick up イベント

哲学カフェ「幸福とは何か」

哲学カフェの会場を東京神田界隈に移して1年半ほどになる。新聞に哲学カフェの記事が載り、参加者がぐっと増えた。毎回30人前後。進行役泣かせの人数だが、これくらいのほうが哲学カフェらしいともいえる。対話の糸口を見つけるために、最初に「幸福」について思い思いに話してもらった。

同じ経験をしても幸福だったり幸福でなかったりする、幸福は主観的なもの／一瞬の快楽ではなく長期的な快楽／小さな幸せの積み重ね／絶対値ではなく相対値であり、過去と現在、自己と他者を比較して自分の立ち位置を確認することも含む、全体的なもの／幸福とは欲が満たされること、など。

この最後の見解から対話を始めた。これに対しては、次のような反論。
欲があることは苦しいので、むしろ欲がないことが幸福ではないか／欲しなくても思
いがけず訪れる幸せ、失うことによって見出す幸せ、後からわかる幸せもある／欲は無限だから欲の満足が幸福なら、幸福など永遠はない。

それに対して、状況が変われば欲も変わる、という再反論。続いて次のような問い合わせをめぐって対話は進んだ。

その時々の幸福感か、自分の状態の認識・判断も含めた全体的なものか／幸福感を伴わない幸福はありうるか、特に、薬物依存者のように、周囲から見て幸福に見えない人々が快楽を感じていることを「幸福」と呼べるのか／結婚の経験がないのに結婚を幸福と考えている人のように、世間的な幸福の基準があるのではないか／幸福は他の人々との関係に依存しているのではないか。

最後に、みんな幸福を人生の目的としているかのように語っているが、それでいいのか、という問い。結局、この問い合わせが7月の対話のテーマになった。

(報告・寺田俊郎)

日時：5月18日（土）13:00～15:00

場所：カフェテラス古瀬戸

進行：寺田俊郎



カフェテラス古瀬戸：神田の古本屋街の一角、「日本文芸社」が入ったビル1階にあるカフェ。地下鉄「神保町」駅より徒歩1分。

【東京哲学カフェ】

関西を中心に活動しているカフェフィロが、唯一関東で定期開催している哲学カフェ。東京神田界隈のカフェで、2ヶ月に一度、奇数月に開催しています。

日ごろ気になるこの問い合わせ、あの問い合わせをめぐって、スリリングな哲学的対話を楽しんでみませんか。

次回は、9月25日（土）15:00より、Cafe Klein Blue（千代田区神田神保町1丁目7サンコウドウビル2F）にて開催の予定。テーマは「よく生きること」。

専門用語が日常となるとき

メンバー-columns

紀平知樹

医療系の大学に勤務し始めて一年と少しが過ぎていきました。大学に入ってからほんまに「文学部」というところに属していたことからすると、かなりの変化でした。普段の会話でも、例えば、疾患についての話や薬についての話など、専門用語がポンポンと飛び交い、話を理解して、ついて行くことも大変でした。というより何を話しているのかよく分らないということもたびたびでした。そのような場面でたびたび感じたのは、私にとっては「専門用語」に思えるような言葉も、その人たちにとっては、自分の生活の一部である医療行為の中で用いている「日常用語」となっているということでした。

現在、医療、医療教育の中でさかんに喧伝されているのが、「チーム医療」というあり方です。医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士などの医療従事者がフラットな関係で治療にあたるという医療モデルです。患者に対して治療についてしっかり説明し、理解した上で自ら決定するというインフォームド・コンセントの重要性もいわれています。チーム医療では、専門職同士でのコミュニケーションが重要になります。また、インフォームド・コンセントにおいては、患者とのコミュニケーションが重要になります。

学生たちも、大学に入學して半年もたてば、それなりに専門用語を使い始めます。ある意味では、そのような言葉を学ぶことが大学で学ぶことであります。専門職に就くための過程でもあります。その反面、そのことによって「素人」との溝もできてくることになるだろうと思います。その溝を埋めるための「方法」を身につけてもらうことも必要だと思いながら、あれこれと試行錯誤しています。

【紀平知樹】
兵庫医療大学共通教育センター准教授。二〇一〇年五月の中之島哲学会議では、臓器移植に関するセミナーの講師をつとめる。

「社会のベッドサイドで哲学を語る」

日 時：六月二五日（金）
 場 所：アートエリアB1
 ゲスト：久住純司、田坂さつき
 進 行：中岡成文

今回の成功は（とあえて言う）、久住純司さんという主役にご登場いただけたのがすべてだつたと思う。久住さんは進行性の神経難病ALSにおかされた自分と向き合いながら、同病の方に「病を生きる希望」を掲げつづけているが、それだけではない。他のALS患者さんたちの技術サポートに東奔西走、その「希望を生み出す技術」を工学系の学生たちに伝授している。ゲストの田坂さつきさんが見事に表現してくださったとおり、この二重の意味で、久住さんは「希望」を表現している。ただし、蒸し暑いですねという時節のやりとりも、軽々にはできない。腕の中心に何か冷たいものが走っている感じがあるらしいのだ。また、バリアフリーとはいえない会場（アートエリアB1）へのアクセス。体に芯がないかのようにエスカレーターの手すりにもたれかかる彼を、三人で三十秒支えつけた。ALSの内なる違和に耐え、まるである種の荷のように他人の手でひっぱりあげられる居心地の悪さに、私たちの想像力はたぶん届かない。「電気小僧」を自称し、百円ショップの商品でALS患者の命とコミュニケーションを左右する「スイッチ」を工夫する（何たるスイッチ！）。病気との出会いによって鍛えられたその技術者魂は、久住語彙を比類なく鮮烈なものにしている。たとえば、彼は氣力といわず、「欲」という。「欲がなければ希望につながらない」という。これこそ「現場」の言葉ではないか。臨床の哲学そのものではないか。それを耳にした感動はある参加者をして次回の哲学コレージュにも足を運ばせ、次のようにコメントさせたらしい。「久住さんが最後に『み

なさんに感謝します』とおっしゃっていて、そのこと自体に感動し、希望を感じ、感謝しました」。
 （報告：中岡成文）

【中之島哲学コレージュ】

六月九日 哲学カフェ『幸せ』って何？
 進行：三浦隆宏

六月二五日

セミナー
 「社会のベッドサイドで哲学を語る」
 ゲスト：久住純司、田坂さつき

七月十四日

セミナー
 「ボロロッカ～ぼくらは生きている」
 ゲスト：『月桃の花』歌舞団

七月二三日

セミナー
 「哲学カフェ『希望をもつ、ということ』」
 進行：高橋綾

七月十四日

セミナー
 「ボロロッカ～ぼくらは生きている」
 ゲスト：『月桃の花』歌舞団

進行：三浦隆宏

七月二三日

セミナー
 「ボロロッカ～ぼくらは生きている」
 ゲスト：『月桃の花』歌舞団

進行：三浦隆宏



京阪電鉄中之島線「なにわ橋駅」地下構内に設けられたアートエリアB1にて。右からゲストの田坂さつきさん、久住純司さん、進行の中岡成文さん。

2010年6月～7月活動一覧

- 6月 9日 哲学カフェ『幸せ』ってなに？ アートエリアB1 三浦隆宏
- 6月15日 哲学カフェ「中学生に何が必要か？」 神戸市北区子育て支援センター 松川絵里
- 6月18日 哲学カフェ「成長するってどういうこと？」 オレンジショップ 中川雅道
- 6月19日 哲学カフェ「死生観－いい生き方はいい死を迎えるか？」 千里文化センターコラボ 本間直樹
- 6月20日 シネマ哲学カフェ『沓掛時次郎 遊侠一匹』 シネ・ヌーヴォー 中川雅道
- 6月20日 書評カフェ「哲学者はなにに戦っていたのか」 カフェP/S 山村雅浩
- 6月25日 セミナー「社会のベッドサイドで哲学を」 アートエリアB1 久住純司、田坂さつき、中岡成文
- 6月27日 哲学カフェ「このカラダってわたしのもの？」 せんだいメディアテーク 西村高宏
- 6月27日 哲学カフェ『共感』は可能か？ クロスロードカフェ 楠本瑠子
- 7月 3日 淡路プラッツ講座+哲学カフェ：村上春樹『1Q84』現象 淡路プラッツ 田中俊英
- 7月10日 哲学カフェ「幸福は人生の目的か？」 カフェテラス古瀬戸 寺田俊郎
- 7月13日 哲学カフェ「人はなぜスポーツをみて感動するのか？」 神戸市北区子育て支援センター 松川絵里
- 7月14日 哲学カフェ「希望をもつ、ということ」 アートエリアB1 高橋綾
- 7月17日 哲学カフェ「しつけって？」 とよなか国際交流センター 木村聰子
- 7月18日 哲学カフェ「生まれたら死ぬんや」 コーヒーショップ JUN 藤本啓子
- 7月23日 哲学セミナー「ボロロッカ～ぼくらは生きている」 アートエリアB1 三浦隆宏
- 7月25日 シネマ哲学カフェ『モダン・ライフ』 シネ・ヌーヴォー 中川雅道
- 7月29日 〈ツツドク！〉 中村雄二郎『共通感覚論』 さする庵 玉地雅浩

賛助会員 カフェフィロでは、カフェフィロの活動に賛同し協力してくださる賛助会員（年会費3,000円）を募集しています。
募集中！ 会員の方には、『哲学喫茶』最新号と、『哲学喫茶 瓦版』（隔月発行）をお送りします。詳しくinfo@cafephilo.jpまで。

CAFÉ PHILO（カフェフィロ）

2005年、大阪大学・臨床哲学研究室のメンバーを中心に発足、哲学カフェ、哲学対話セミナー（こども／大人対象）など、哲学の対話を促進する活動を展開中。

〒537-0023 大阪市東成区玉津 3丁目8-6ロイヤル丸文II 406号室 たまてばこ内

e-mail : info@cafephilo.jp http://www.cafephilo.jp

哲学喫茶瓦版 2010年8月20日発行

発行人：高橋綾 編集・デザイン：井戸貴子、松川絵里

